



# すべての 子育て世代が **かがやく** 県政、藤沢に

～市議会議員、県議会議員のときから市民のみなさんとともに  
とりくんできた **加藤なを子** だからできる！～



## 子どもの医療費を18歳まで無料に

市議会議員のときの最初の質問は子ども医療費助成の拡充。訴え続けて1歳までだったのが、現在、藤沢市は中学卒業まで無料に。4月からは所得制限もなくなります。

県議会議員のときは、子ども医療費助成の拡充を求める請願に藤沢選出の県議で唯一賛成。県は23年度から小学校卒業まで無料に。

＼そのために県では／

子どもの医療費助成の年齢を引き上げます。

2020年県議会第3回定例会（後半）

各会派の態度 ○採択 △継続審査 ×不採択

| 付託委員会 | 件名                    | 署名数<br>代表含む | 審査結果<br>(本会議) | 共産 | 自民 | 立民 | 公明 | 民主 | 県政 | わ町 | 大志 | 神奈 |
|-------|-----------------------|-------------|---------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 厚生    | 県の小児医療費助成制度の拡充についての請願 | 41,370      | 不採択           | ○  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  |

## できたての温かい給食を中学生にも！

市民のみなさんとともに運動にもとりくみ、市議会議員、県議会議員のときから繰り返し質問してきました。

＼そのために県では／

- 中学校給食の施設整備費等の一部を県が補助する制度をつくります。
- 学校給食の無償化に向けた財政支援をおこないます。

## 安心して出産、子育てできる藤沢に

- 妊産婦検診や不妊治療など妊娠・出産にかかる経済的負担を軽減します。
- 認可保育園の増設、保育士などの賃上げと処遇改善、配置基準の改善を進め、保育の質の向上を図りながら、「待機児ゼロ」をめざします。
- 学童保育を必要とするすべての子どもたちが利用できるよう、県独自の支援をつくります。学童保育支援員の処遇を改善します。

2022年県議会第3回定例会（後半）

各会派の態度 ○採択 △継続審査 ×不採択

| 付託委員会 | 件名                                 | 署名数<br>代表含む | 審査結果<br>(本会議) | 共産 | 自民 | 立民 | 公明 | 民主 | 県政 | わ町 | 神奈 | 厚木 | さ会 | 秦野 |
|-------|------------------------------------|-------------|---------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 厚生    | 教育費の公私間格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求める請願 | 58,890      | 不採択           | ○  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ○  | ×  | ×  | ×  |
| 文教    | ゆきとどいた神奈川の障害児教育を求める請願              | 11,793      | 不採択           | ○  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  |

## やるためのお金は あります！

神奈川県は  
約2兆円・全国3位

県予算の1%の組替え  
(200億円)

県の財政調整基金  
(自由に使える貯金)  
2330億円の有効活用

JR村岡新駅(大船—藤沢間4分)  
の設置計画の中止(160億円)



# 加藤なを子

前県議会議員

くらし照らす いっしょに歩む

## プロフィール

2003年～2015年市議3期、中学2年と1年、小学4年の子育てをしながら、子ども医療費助成を初めて議会で取り上げ、前に進める/2015年～2019年県議1期、子ども医療費助成の拡充を求める請願に藤沢選出県議でただ一人賛成/家族は夫と3女。藤沢市円行在住。

LINE



加藤なを子



日本共産党

## 子どもたちが大切にされる県政に変えたい！

### 加藤なを子の 決意

私は、これまで何よりも市民の皆さんと対話し、一緒に行動することを大切にしてきました。

最初に取り組んだのは「子ども医療費無料化の年齢拡大」請願署名。議会に提出するために駅や公園、地域で訪問をして署名を集めました。大事にしてきたことは、現地・現場を確認し、陳情や請願を提出した方にお話を聞き、そして署名一筆一筆に込められた一人ひとりの思いに寄り添う立場で取り組むことです。

その後、市議3期、県議1期つとめました。県議会には、県民から提出された請願や陳情には、共産党以外の会派はみな同じ態度です。請願や陳情について十分な質疑もなく、理由も述べずに反対し不採択や不承になっています。

県民の願いに背を向ける県議会を変えたいと強く思います。

子どもに冷たい神奈川県は、医療も、教育も最低レベル。中学校給食の実施率は全国最下位です。知事が力を入れているヘルスケア産業支援や村岡新駅、リニアにお金を使うのではなく、市民の声や願いに寄り添う県や県議会に、子どもたち一人ひとりを大切にする県政に向けて全力をつくします。

皆さんの願いをお寄せください。その声を必ず県政に届け実現のために働きます。

ご一緒に子どもたちが大切にされるあたたかい県政に変えましょう！

民報湘南

TEL 0466-25-4776 FAX 0466-25-4761

日本共産党の見解を紹介します メール jcp\_shonan@yahoo.co.jp

2023年2・3月号外

発行/日本共産党湘南地区委員会

# すべての子どもに等しく支援を

## 子どもを大切にすることが 社会発展に結びつく

加藤なを子さんと参議院選挙で「8時間働けば普通に暮らせる社会へ」と訴えたあさか由香さん（党県副委員長）がどんな思いで子育て政策をとりあげてきたか語り合いました。

あさか由香

加藤なを子

### 子育て世代を分断しない 子どもへの支援策に 差別を持ち込まない

あさか：なを子さんは、市議時代から一貫して小児医療費の無料化に取り組んできましたね。

加藤：市議1期目は1歳まで。当初、市議会でこの問題を取り上げたのは私だけ。市民のみなさんが毎年陳情を繰り返して、議会で取り上げ続ける中で、中学3年生まで拡充できました。

あさか：すごいですね。社会保障で話題になるのは、所得制限がどんな場合にもついてくること。「そんな裕福な暮らしをしてるわけではないし、税金も払っているのに、何の恩

恵も受けられない」と。

加藤：所得制限はなくすべきだと思います。市民の中で分断をうむことにつながりますし、病気になれば親の状況に関係なく、みんなが安心して病院に行けるとメッセージが届けることが大切だと思います。

### 子どもたちの学びによる 受益は、社会全体

あさか：私たちは国政でも教育費の完全無償化を求めています。県議会でも給食への支援や、県立大学や専門学校に通う学生への支援を求めていますね。

加藤：12月議会でも、県立保健福祉大学の学生の半数が奨学金を利用している実態や、「実習中はバイトが

できないので厳しい」という学生の声もとりあげ、支援を求めましたが、県知事は「受益者負担だから」と支援に背を向けました。

あさか：コロナ禍でケア労働の大切さをみんなが実感したことをとりあげ、学生が学ぶことによる受益者は社会全体だと反論した共産党県議の質疑は圧巻でした。

加藤：教育費の公私間格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求める請願や、ゆきとどいた障害児教育を求める陳情に賛成しているのは残念ながら共産党だけです。エネルギーや食糧自給率、感染症、経済や紛争への対応など、教育は新しい課題に向き合う力を育てます。その受益者は社会全体だという角度で頑張りぬきたい！

# 日本共産党県議団の実績

住民の声を議会に届け、  
住民の願いで政治を前に動かす

新型コロナ対策で、知事に対し、17回にわたり要望書を提出。保健師の増員、医療機関への財政支援、学校や福祉施設での定期的なPCR検査・集中検査などの実現につながりました。

税金の無駄遣いに  
ズバリ切り込む働き

県議団は、一部議員による政務活動費の不正利用問題を取りあげ、政務活動費領収書の公開を要求。市民グループの運動と連携してとりくみ、2023年度支出分から領収書のインターネット公開が始まります。

議会改革を進める

県民からの請願数は22年12月19日時点で58件。このうち共産党が紹介議員になったのは、42件で全体の72.4%でダントツ。58件全てに賛成しました。委員会傍聴の許可制をやめるよう求め、誰でも傍聴できるようになりました。



## 外交こそ国防の柱

### 敵基地攻撃能力保有と「軍事費2倍」の大軍拡

### — 許さない意思を示そう

国民の声、国会を軽視して進める敵基地攻撃能力保有と「軍事費2倍」の大軍拡は中止に。憲法9条をもつ日本こそが東南アジアで広がる平和の枠組みを生かし、東アジア全体を戦争のない地域にしていく外交戦略を進めます。反戦・平和を貫き100年、戦前の侵略戦争に反対してきた党だからこそ、平和の提案ができます。

日本共産党の  
ことをもっと  
知りたい方は



私たちも  
がんばります



柳沢じゅんじ市議



土屋としのり市議



みむら耕太郎市議



かとうあやの  
党市こども教育くらし担当

## ジェンダー平等を力強く進める県政へ

女性の労働条件改善、包括的性教育につながる教員向けの「性教育指導の手引き」の改定、コロナ禍で「女性の貧困」が広がる中、生理用品の学校での無償配布、公共施設への配備を行わせるなど、ジェンダー平等に向けた政策を実現してきました。

また、ジェンダー平等の実現へ、選択的夫婦別姓、女性差別撤廃条約への批准を求めてきました。

- セクシャルハラスメントや痴漢被害など性暴力を許さず、根絶していくために県政が積極的な役割を果たします。被害者への親身な支援を強めます。
- 非正規雇用、昇進・昇格差別やマタニティハラスメント等働く女性への差別を根絶するよう、企業への指導を強化します。
- 県の政策決定への女性の参画等あらゆる意思決定の場でのジェンダー平等を進めます。
- ジェンダー平等を推進する県の機構をつくります。